

	18日 (木)	19日 (金)	20日 (土)	21日 (日)
集中日 国が認め 由の侵害 のアップ 倍償を求 視地裁) 機関(W ボジウム ・ローザ	▽日銀金融政策決定会合(～19日) ▽東芝が臨時株主総会(東京都) ▽日本原子力発電東海第2原発(茨城県東海村)は安全性が確保されていないとして、茨城など9都県の住民が日本原電に運転差し止めを求めた訴訟の判決(水戸地裁)	▽日銀総裁会見(東京都) ▽日本アカデミー賞授賞式(東京都) ▽野球 選抜高校大会(～31日、甲子園) ▽ゴルフ Tポイント×ENEOS(～21日、鹿児島県鹿児島高牧)	▽全米桜祭り(～4月11日) ▽地下鉄サリン事件から26年(東京都) ▽競馬 中日スポーツ賞ファルコンステークス(中京) ▽競馬 フラワーカップ(中山)	▽自民党大会(東京都) ▽知事選=千葉 ▽政令市長選=千葉 ◇おことわり 新型コロナウイルスの影響などで、予定が変更になる可能性があります。

古くて、新しい

マルニ西脇 (妙高市)

■ 2 ■

米老舗トップと面会

「俺がやらないといけない」と覚悟した。人気店を継ぐ重圧より、責任感が上回った。

年が明けて間もなく、正信氏は息を引き取った。謙吾氏は当時19歳。予備校に通っていたが、大学入学は諦めた。家業を支えるため、税務会計を学べる東京の専門学校へ急ぎ進路を変えた。

時代に
にいがた
Niigata
企業
ヒストリー

マルニ西脇(妙高市)を創業した西脇正信氏は1987(昭和62)年秋、病に倒れた。入院先の病院には、面会を希望する若者が絶えず訪ねた。ジーンズを売るだけではなく、若者の悩み相談にまで乗り、慕われた正信氏の人柄を示した人の輪だった。

現社長で長男の謙吾氏(52)は父の深刻な容体を知らされ

効率最優先の現場に疑問



米国のジーンズ工場を視察した現社長の西脇謙吾氏。1990年代から渡米を重ねた96年

幼少の頃から「文字通り、ジーンズに埋もれて育った」という謙吾氏。進学先の東京は校舎の内外で、吸収すべき情報はあふれていた。80年代後半、「渋カジ系」と呼ばれるストリートファッションが流行していた。その主役が米国製ジーンズ。「休みになれば、渋谷や原宿を歩いた。流行の店の品そろえや店構えを学ぶ教材には事欠かなかった」と振り返る。

社長に就いた母久仁枝氏(77)が商談で上京するたび、行動を共にした。謙吾氏はどの取引先でもかわいがられ、正信氏の評判を思い知った。目利きを信じ、在庫リスクの

ある「完全買い取り」を徹底していたからこそだった。後継者として、自分はどう自信を培っていくべきか。あは校舎の内外で、吸収すべき情報はあふれていた。80年代後半、「渋カジ系」と呼ばれるストリートファッションが流行していた。その主役が米国製ジーンズ。「休みになれば、渋谷や原宿を歩いた。流行の店の品そろえや店構えを学ぶ教材には事欠かなかった」と振り返る。

野菜に肉、そしてジーンズ。90年、謙吾氏が初めて旅行の店の品そろえや店構えを学んだ。中心街や郊外のブティックでも当然、ジーンズは存在感を放っていた。米国のジーンズの懐の深さを、帰国後、米最大手の



品そろえや接客を試行錯誤した。売れると予測した型を切り切る、父の大きさを感ずる。先代から変わらぬ愛される常連の存在も大きかった。毎月500～千本のジーンズを売り、目標をかなえた。褒賞として再び渡米した91年、サンフランシスコのビル増収を続ける最大手メーカー

「マルニ西脇」2号店の新井店を開いた創業者の西脇正信氏(右)ら1977年

の社長と面談がなかった。「わがファミリー」と切り出した一言に、心をわしづかみにされた。

ただ、話題には業界の危機感がにじんだ。企画製造から小売りまでを一貫して手掛ける「製造小売り」の台頭に脅威を感じていた。一例に挙げた米アパレル「GAP」は創業当初、ナショナルブランドを扱う一小売店だった。次第に自社製品の開発を進め、米国の代名詞ともいえるアパレルに育っていた。

90年代後半、日本では「ユニクロ」が自社企画のフリーズで大ブームを巻き起こし、名を広めた。こうした流れの加速を、米老舗のトップは見抜いていた。

謙吾氏は特別にジーンズ工場も案内された。壁の張り紙が目についた。「何本以上縫えば、報奨金がいくらと記されていた」。従業員は低賃金の移民が大半を占めた。「大量生産」「効率化」を最優先するものづくりの現場に、失望を禁じ得なかった。

「日本なら、もっといいものができるのではないか」。帰国の機内、自社開発したいという気持ちが高ぶった。そして、亡き父が生前、親交のあった人物が頭に浮かんだ。大石哲夫氏。「日本のジーンズの父」と呼ばれた人だった。